

日本国とグアテマラ共和国との間の 戦略的パートナーシップに関する共同声明

日本国及びグアテマラ共和国の外交関係樹立90周年を記念し、セサル・ベルナルド・アレバロ・デ・レオン・グアテマラ共和国大統領は、日本国政府の招待を受け、2025年6月8日から12日まで訪日し、石破茂日本国内閣総理大臣と会談した。両首脳は、世界の平和と安全に一層貢献し、自由で開かれたインド太平洋の実現に向け共に取り組むべく以下の点で一致し、共通の価値や原則で結ばれた太平洋をまたぐパートナーとして、政治、経済、開発協力、地域及び国際場裡の諸課題などの幅広い分野における連携を一層深めるべく、両国の関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げすることで一致した。

二国間関係におけるパートナーとしての連携

1 両首脳は、日本とグアテマラが自由、民主主義、法の支配、人権等の価値や原則を共有する重要なパートナーであることを確認した。石破総理は、本年の日・グアテマラ外交関係樹立90周年及び2025年日・中米交流年の機会におけるアレバロ大統領の日本への公式訪問及び首脳会談の実施を歓迎し、両国の間の緊密な友好関係を強調した。両首脳は、周年への祝意を表明するとともに、両国関係の強化及び国民同士の緊密化への期待を表明した。

2 両首脳は、関西地方、大阪市内で開催されている2025年日本国際博覧会に言及し、同万博が参加国の魅力を世界に示す絶好の機会であり、同万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に貢献する場であるという認識で一致した。石破総理は、グアテマラ共和国の大阪・関西万博への参加と、アレバロ大統領夫妻の大阪・関西万博ナショナル・デー行事への出席を歓迎した。アレバロ大統領は、グアテマラの参加を可能なものとした日本の支援に対する謝意を石破総理に対し表明した。

3 両首脳は、両国間の幅広いレベルでの政策対話の進展を歓迎し、両国が、二国間並びに地域及び国際場裡の諸課題における連携を一層強化することで一致した。その観点から、両首脳は、本年1月グアテマラ市外務省内において第一回政策協議が開催されたことを歓迎した。

4 アレバロ大統領は、両国を結び付ける90年の外交関係の歴史の中で、日本がグアテマラに対し実施した無償・有償の様々な二国間協力の取組に言及した。日本は戦略的パートナーであると述べ、グアテマラの大統領、また一人のグアテマラ国民として、日本の支援に対する深い感謝の意を表明した。同大統領は、これらの支援によって、様々なインフラ・プロジェクトの設計や実施が可能となり、

裨益するグアテマラの地域社会の発展と福祉に大きく貢献してきたことを評価した。

5 アレバロ大統領は、日本がグアテマラの投資分野における重要なパートナーであることを確認し、両国間の貿易における潜在的可能性を強調した。石破総理は、グアテマラのマクロ経済の安定性が同国の成長と発展を反映していると強調し、法的確実性、持続可能性、技術革新及び人材育成を中心とする、外国投資にとって望ましい制度的枠組みを作り出すためのグアテマラ政府の取組を強調した。

6 両首脳は、日本企業によるグアテマラへの投資がグアテマラの雇用を創出し、グアテマラ経済に貢献していることを確認しつつ、こうした投資を一層促進することが重要である点で一致した。

7 アレバロ大統領は、自らの政権下で実施予定の様々なインフラ事業の設計及び建設に関し、グアテマラ政府が実施する国際入札の各プロセスへの日本企業の参加に対し強い関心を表した。これに対し石破総理は、関心の表明に謝意を表明した。

8 両首脳は、米州地域の主要課題の一つである移民問題につき、引き続き連携することを確認した。石破首相は、アレバロ大統領の人権を重視しつつ包括的に移民問題に取り組む決意を認識した。アレバロ大統領は、帰還移民支援や移民関連での子どもと若者の保護における支援等、日本が果たしている役割に対する謝意を述べ、両国は、引き続き連携していくことを確認した。

9 また、アレバロ大統領は、国際協力機構（JICA）が派遣する日本人ボランティアの活動が、日本とグアテマラの間にも存在する知見の移転及び人と人との絆の一層の深化を可能にしてきたことに対し謝意を表した。

価値と原則の共有

10 石破総理は、自由、民主主義、法の支配、汚職との闘い、人権等の価値や原則を擁護するアレバロ大統領のリーダーシップを評価した。アレバロ大統領は、国際社会の平和と安定に貢献する日本の長年の取組に謝意を表した上で、日・グアテマラ両国の協力が地域の平和と安定に果たす役割を強調した。

11 両首脳は、両国が共有する価値に根ざし、主権及び領土一体性の尊重、紛争の平和的解決、並びに武力の行使の禁止といった国連憲章の原則を堅持することで、法の支配に基づく国際秩序を維持・強化することの重要性を確認した。

この観点から、石破総理は、インド太平洋地域の連結性を高め、力や威圧とは無縁で、自由と、法の支配等を重んじる場として育てるという「自由で開かれたインド太平洋（ＦＯＩＰ）」のビジョンの重要性を強調した。アレバロ大統領は、かかる日本のビジョンへの支持を表し、それが平和及び公正で調和のとれた連帯のある国際システムの構築を目指すグアテマラ政府の外交政策を規律する価値や原則と一致する旨強調し、国際法の規範と自由意志で締結された国際約束の尊重を再確認した。

１２ 両首脳は、国際社会を分断や対立ではなく協調に導くためには価値や原則を共有する同志国の連携がこれまでになく重要であるとの点で一致した。

法の支配に基づく国際秩序の維持・強化のための連携

１３ 両首脳は、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化のため国連改革が不可欠であることで一致した。両首脳は、未来サミット成果文書「未来のための約束」で安保理改革の緊急の必要性が認識されたことを歓迎した。両首脳は、常任及び非常任理事国の議席カテゴリーの拡大を含む具体的成果を達成するために協力することで一致し、石破首相は、改革された安保理における日本の常任理事国入りをグアテマラが支持していることに対し謝意を表明した。

１４ 両首脳は、北朝鮮の核・弾道ミサイル計画に対する深刻な懸念を表明し、国連安保理決議に従った北朝鮮の完全な非核化へのコミットメントを再確認した。両首脳は、北朝鮮が、全ての関連する国連安保理決議に従って、自らの全ての核兵器並びにその他のいかなる大量破壊兵器及び弾道ミサイル計画も放棄するよう要求した。両首脳は、また、暗号資産窃取を含む北朝鮮の悪意あるサイバー活動や、拡大する北朝鮮とロシアとの間の軍事協力を抑止し、これらに対処する必要性を強調した。日本とグアテマラは、北朝鮮に対し、日朝間の拉致問題を即時に解決するよう強く求めた。

１５ 両首脳は、科学者、パートナー、国際原子力機関（ＩＡＥＡ）と積極的に協調しながら、多核種除去設備（ＡＬＰＳ）処理水の放出を責任ある形で管理するための、安全で、透明性が高く、科学的根拠に基づいた日本のプロセスの意義を強調することで一致した。アレバロ大統領は、この重要な議題に関し、石破総理のリーダーシップを評価した。

１６ 両首脳は、広島と長崎で核兵器が使用されてから８０年が経過したことを想起しつつ、国際的な核軍縮・核不拡散アーキテクチャーの礎石としての核兵器不拡散条約（ＮＰＴ）体制の維持・強化の重要性を再確認し、「核兵器のない世界」の実現という共通の目標に向けて、引き続き協働することで一致した。

１７ 両首脳は、ＷＴＯを中核とするルールに基づく多角的貿易体制の維持・強化の重要性を認識し、ＷＴＯの全ての機能を向上させるべく、その改革に協働していくことで一致した。

１８ 両首脳は、戦略物資の安定的な供給及びサプライチェーンの強靱化を含む経済安全保障の重要性に係る認識を共有するとともに、引き続き連携していくことを確認した。

１９ 両首脳は、東シナ海及び南シナ海情勢への深刻な懸念を表明し、力又は威圧によるあらゆる一方的な現状変更の試みに強く反対した。両首脳は台湾海峡の平和と安定の重要性を強調した。

２０ 両首脳は、ベネズエラにおける民主主義の回復のため、人権の尊重、法の支配、民主主義及び野党が含まれる対話の促進が必要であることについて一致した。

２１ 両首脳は、ハイチの民主主義の完全な回復には、持続的な治安の安定が不可欠であること、及びハイチ国家警察やグアテマラが貢献する多国籍治安支援（ＭＳＳ）ミッションの果たす役割の重要性を確認し、両国が引き続き協力していくことを確認した。

２２ アレバロ大統領は、石破総理に対して、日本訪問中の温かいおもてなしと配慮への謝意を表し、石破総理は、アレバロ大統領訪問の実現を歓迎した。両首脳は、歴史的な会談を通じて実り多き対話が行われたことについて互いに祝意を表明した。

石破 茂
日本国内閣総理大臣

セサル・ベルナルド・
アレバロ・デ・レオン
グアテマラ共和国大統領